

2025 年度大学院博士前期課程試験問題(第 2 回)

2024 年 11 月 23 日実施 [環境計画分野(配点 50 点)]

以下 1、2、3 の問いに答えなさい。

(解答用紙は、それぞれの設問に対して、必ず 1 枚ずつ使用すること。裏面まで使ってもよい)

1. 下記の 3 つのタームについてそれぞれ 100 字程度で簡単に説明しなさい。

(配点 15 点)

1) 流域治水

流域治水とは、河川だけでなく流域全体で総合的に治水対策を行う考え方である。気候変動に伴う豪雨災害の増加に対応するため、森林・湿地の保全、農地の保水機能向上、遊水地の活用、都市部の雨水貯留など、多様な対策を組み合わせる。流域全体で水を管理し、災害リスクを低減することを目的とする。

2) グリーンインフラ

グリーンインフラとは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能な国土づくりや地域づくりを実現するためのインフラ整備の概念である。都市の緑地や湿地、森林、屋上緑化などを活用し、防災・減災、気候変動対策、生物多様性保全、景観向上を行い、自然共生型の社会を目指すものである。

3) ランドスケープ・エコロジー

ランドスケープ・エコロジー（景観生態学）は、「景観」という空間の諸特性を様々なスケール、様々な視点から階層的に解明していこうとする学際的な学問である。生態系機能を発揮させ続けていくために必要な地域計画や土地利用施策（エコロジカル・プランニング）に科学的・論理的基盤を提供するものである。

2. 「農村地域における里山保全の意義」について 200 字程度で簡潔に論述しなさい。

(配点 15 点)

里山は、生物多様性を支える重要な環境であり、農業や林業と調和した持続可能な資源利用が可能な地域である。しかし、過疎化や高齢化により管理が行き届かなくなり、森林の荒廃や外来種の侵入、生態系の劣化が進むなどの課題がある。また、放棄された農地の増加や土地利用の変化も生態系に影響を与える。一方で、里山の適切な保全は、水源涵養や防災機能の強化、二酸化炭素の吸収による気候変動緩和など、多様な生態系サービスを提供する。農村地域における里山の適切な管理と保全は、環境と共生する持続可能な社会の実現につながる。

3. 日本の風土に合った自然再生、環境計画・設計のあり方について 400 字程度で論述しなさい。

(配点 20 点)

自然再生、環境計画・設計を行う際、その土地の気候、地形や景観等だけでなく、人間の生活、歴史、文化等も考慮に入れた計画等を行うことが求められている。ところで、風土とは、主にある土地の気候・気象・地形・地質・景色（景観）などの総称という概念で使われる用語である。和辻哲郎によると「風土」は単なる自然現象ではなく、その中で人間が自己を見出すところの対象であり、文芸、美術、宗教、風習などあらゆる人間生活の表現が見出される人間の「自己了解」の方法である。こうした規定をもとに具体的な研究例として、モンスーン、砂漠、牧場を挙げ、それぞれの類型地域における人間と文化のあり方を把握しようとした。歴史景観保全地区や地域の在来種を用いた公園緑地設計等、それぞれの地域の風土にあった計画や設計が日本国内の様々な場所で求められている。